

株式会社 京都銀行

京都市下京区烏丸通松原上る
郵便番号600-8652

「環境」となが いおつきあい。 小冊子「ミニ環境レポート 2010」を発行します！

京都銀行（頭取 高崎 秀夫）では、当行の「環境問題」に対する取り組みをわかりやすくご紹介する小冊子「ミニ環境レポート 2010」を発行しますのでお知らせいたします。

当行では、「京都議定書」が採択された地元京都の金融機関として、環境問題への取り組みを重要な経営課題と位置づけ、平成 20 年 3 月にはいち早く、本部役員で構成した「環境会議」ならびに本部組織横断的な「環境委員会」を設置し、「環境方針」を制定しております。

現在、行動計画（平成 20 年度～平成 24 年度）「第一次環境プラン」ならびに単年度計画「平成 22 年度環境プログラム」に基づき、役職員が一体となって環境保全活動に取り組んでいます。

今般、その取り組みを小冊子「ミニ環境レポート 2010」にまとめ、お客さまにお伝えいたします。

記

1. 「ミニ環境レポート 2010」掲載内容

- (1) 京都銀行の「森づくり」
- (2) 京都銀行の「環境にやさしい店舗」
- (3) 環境のためになる銀行の商品
- (4) 京都銀行の従業員の活動
- (5) Message ～「環境」となが いおつきあいをするために～
- (6) 環境方針

2. 配布時期

平成 22 年 10 月 20 日（水）

* 全店の窓口等で配布いたします。

3. 環境方針について（平成20年3月制定）

《基本理念》

わたくしたち京都銀行は、1200年を超える歴史都市京都を本拠に、美しい自然と貴重な歴史・文化を有する近畿地方に広域展開する銀行として、地域とともに持続的な発展を目指しております。

こうした地域の豊かな自然環境や歴史・文化的遺産を次世代に伝えていくことは、わたくしたちの社会的使命であり、環境問題を経営の重要課題として認識し、全役職員が積極的に環境保全に取り組んでまいります。

《行動指針》

- (1) 環境に関連する法律、規則、協定などを遵守します。
- (2) 企業活動が環境に与える影響を的確に把握し、目的・目標を定めて取り組むとともに、定期的に見直すことで環境保全活動の継続的な改善に努めます。
- (3) 省エネルギー、省資源、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の軽減に努めます。
- (4) 環境に配慮した金融商品およびサービス等の提供を通じて、環境保全活動に取り組むお客様を支援し、地域社会の環境改善に貢献します。
- (5) 役職員一人ひとりが環境問題に関する認識を深め、地域社会の環境保全活動に取り組みます。
- (6) この環境方針および環境に関連する取組みにつきましては、役職員全員に周知徹底し、一般にも公開します。

4. 「環境会議」、「環境委員会」の組織図

《環境会議》

議長：専務取締役

副議長：総務部担当役付取締役

構成員：総合企画部、広報部、営業統轄部、公務部、
東京事務所を担当する各役付取締役

《環境委員会》

委員長：総務部担当役付取締役

副委員長：総合企画部長、総務部長

委員：リスク統轄部、広報部、営業統轄部、お客様サービス部、法人部、個人部、公務部、
審査部、市場金融部、証券国際部、秘書室、人事部、事務部、システム部、監査部、
東京事務所、事務センターの各部長

5. 「第一次環境プラン」ならびに「平成 22 年度環境プログラム」について

< 第一次環境プラン >	
期 間	平成 20 年度～平成 24 年度
数値目標	当行の CO2 排出量について平成 19 年度を基準として、 平成 24 年度までに、総量で 15%以上削減 平成 19 年度 CO2 排出量 : 10,687 t 平成 24 年度 CO2 排出量目標 : 9,084 t 以下
銀行本体の取り組み	省エネ活動、排出権の購入等
お客様・地域社会 に向けた取り組み	「京都モデルフォレスト協会」等への積極参加、環境配慮 型商品・サービスの提供、排出権取引への対応等
従業員の取り組み	全役職員の家族における「エコライフ」への取り組み

< 平成 22 年度 環境プログラム >	
期 間	平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
数値目標	当行の CO2 排出量について平成 19 年度を基準として、 平成 22 年度までに、総量で 8%以上削減 平成 19 年度 CO2 排出量 : 10,687 t 平成 22 年度 CO2 排出量目標 : 9,832 t 以下

6. CO2 排出量 成果

平成 20 年度・21 年度で、平成 19 年度比削減目標 4 %を達成

以 上